

研究課題名：	アミノ酸輸液製剤と <i>Bacillus cereus</i> 血液培養陽性症例の因子に関する検討
研究機関名 所属（診療科等）：	さいたま赤十字病院 薬剤部
研究責任者及び職名：	臨床薬剤業務係長 高野 温志
研究期間：	研究実施期間 2020年12月10日～2021年3月31日 カルテ調査期間 2017年4月1日～2020年10月31日
研究の目的と意義：	<p>グラム陽性有芽胞菌の一種である <i>Bacillus cereus</i> (<i>B. cereus</i>) は、カテーテル関連血流感染の原因菌の1つであり、特にアミノ酸輸液との関連については、国内での報告も散見される。2019年8月23日には、厚生労働省医政局地域医療計画課より「医療機関における <i>Bacillus cereus</i> の院内感染事例について」との事務連絡が通知され、各医療機関において <i>Bacillus cereus</i> に係る院内感染対策の推進と周知が求められている。これらに対し、アミノ酸輸液をはじめとした末梢輸液製剤の血流感染を予防するため、輸液ラインの取り扱いや標準予防策、環境整備など対策が講じられているが、輸液製剤の投与経路および投与時間ならびに製剤規格について言及した論文は少ない。</p> <p>当院では、2019年10月より、<i>Bacillus cereus</i> に起因するカテーテル感染症の予防対策として、アミノ酸含有総合電解質輸液であるビーフリード輸液の製剤規格のうち1000mL製剤の採用を中止し、500mL製剤のみの採用とした。併せて、ビーフリード輸液の長時間投与（6時間以上）の対策として、注射オーダー時に「6時間以内での投与推奨（か感染予防目的）」の注意喚起コメントを掲載することとした。今回、<i>Bacillus cereus</i> に起因するカテーテル感染の予防策として講じたビーフリード輸液の規格変更前後において、血液培養から <i>Bacillus</i> 属が検出された患者について、アミノ酸輸液の使用有無と使用状況（投与時間や期間）を調査し、ビーフリード輸液の規格変更の影響を検証する。</p>
研究内容：	<p>2017年4月1日から2020年10月31日までの間に血液培養より <i>Bacillus</i> 属が検出された患者について電子カルテを用いて後ろ向きに調査する。</p> <p>調査項目：年齢・性別・菌名称・アミノ酸輸液の使用有無・アミノ酸輸液の使用規格・投与量・投与開始時間・投与終了時間・投与開始日・投与終了日・投与期間・投与経路</p>
個人情報の取り扱い	当院より外部へ情報を送付することはない。集計した情報を学会発表や論文などで公表する際も患者さんの個人が特定できる情報は公表されない。

問い合わせ先： (拒否等の受付窓口)	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 薬剤部 氏名：高野 温志 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5 電話：048-852-1111 (内線 3408)
-----------------------	---